

図書館だより



no.242

2023(令和5)年8月10日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



展示のご案内

佐藤文庫展

期間:8月4日(金)~10月4日(水) 場所:企画展示コーナー

佐藤文庫とは、故・佐藤伝吉(さとう でんきち)氏(1887-1967)が65年にわたって収集した、日清・日露戦争を中心とした古今東西の戦争に関する文献類の一大コレクションです。

佐藤氏が少年のころ、乃木希典大將が陸軍大演習のために来県し佐藤家に泊まったことをきっかけに軍人に関心を持ち、戦争関係資料を集め始めたといい、「人類の歴史は戦争の記録につながるものであり、戦争の真実を知ることなしには真の平和も希求されがたい」という信念のもと収集された資料は図書だけではなく、新聞、雑誌、文書、ポスター、地図、絵巻物など多岐に渡ります。

普段は書庫の中にあり、なかなか見ることができないコレクションをこの機会にぜひご覧ください。

おはなしかいのご紹介

福島県立図書館では、子どもたちに絵本を楽しんでもらえるように読み聞かせを実施しています。今回は、中でも定期的に開催している「ちいさなおはなしかい」と「放課後おはなしかい」をご紹介します。



★ちいさなおはなしかい

0歳から3歳の子どもと保護者の方を対象とした、絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しむおはなしかいです。

毎月第2木曜日開催です。(8月を除く)

【次回以降の開催予定】

9月14日(木)午前10時30分 から

10月12日(木)・11月9日(木)

★放課後おはなしかい

4歳から小学生の子どもと保護者の方を対象とした、読み聞かせがメインのおはなしかいです。毎月開催です。(日程はHP等でお知らせします)

【次回以降の開催予定】

8月23日(水)午後15時45分 から

9月20日(水)・9月28日(木)

参加申し込みは不要です。どちらも15分程度の短いおはなしかいですので、お気軽にご参加ください。開催日や時間は図書館HP・Twitterなどで告知しています。

お問い合わせは福島県立図書館 こどものへや(電話:024-535-3218)まで。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『FILMMAKER'S EYE 映画のシーンに学ぶ構図と撮影術:原則とその破り方』グスタボ・メルカード/著, B スプラウト/訳 ボーンデジタル 2023.3

778.4/ㄗ 233

昔見た映画のワンシーンが、心に残って離れないことはありませんか? 本書は映画のワンショットに用いられる構図と撮影術を紹介し、それらがいかにか効果的にメッセージを伝えているかを解説しています。

「羊たちの沈黙」、「マトリックス」等の有名映画120の例から、普段見ている映画のショット一つ一つに込められた意味を探ることができます。映画を撮るだけでなく映画をもっと楽しみたい方にもおすすめです。

『子どもと一緒に覚えたい野菜の名前』稲垣 栄洋/監修, 三反 栄治/絵 マイルスタッフ 2023.4 626/ㄗ 234

スーパーなどで日常的に見かける野菜ですが、詳しい生態を知る機会はありません。お店で売られている姿だけでなく、私たちが知らない野菜の姿を学ぶことができます。イラストや写真を用いた分かりやすい解説は、子どもはもちろん大人でも新鮮な気持ちで楽しめます。野菜を用いた実験も取り上げられているので、夏休みの自由研究の参考にもなります。当館には木の実や貝殻などほかのシリーズも所蔵がありますので、あわせてご覧ください。

『日本全国奇妙な県境・市町村境の事典』浅井 建爾/著 東京堂出版 2023.2 291.04/ㄗ 232

地図上では一つの線で表記される境界線ですが、よく見ると複雑に屈曲している境界が少なくないとのこと。本書では、複雑怪奇な県境・市町村境や建造物の中の境界線といった不思議な全国各地の境界を紹介するとともに、なぜそのような形になったのかを考察しています。福島県からは、山形県と新潟県の間を割り込むかのような全長7.5km以上の県境や、須賀川と玉川村をまたがって位置する福島空港などが取り上げられています。巻末に県別・市町村名索引あり。

児童・児童図書研究

『これがわたしの生きる道!伝記 日本の女性たち 3 文化・スポーツで活やくーいわさきちひろ・人見絹枝ほか』青山 由紀/監修 汐文社 2023.2 281/ㄗ 3

この本で紹介されている女性たちは、まだ女性の人権が十分に認められていなかった時代に生きながらも自分のやりたいことをやり遂げた人たちです。第3巻では、日本人女性として初めてオリンピックに出場した人見絹枝や、絵本画家として今も幅広い世代に愛されるいわさきちひろなど、現代を生きる私たちにも大きな影響を与えた女性たちの伝記が紹介されています。「女性であること」が一番のハンディキャップだった時代から現代にかけて、社会ではどういった変

化があり、そしてどういった問題が今も残っているのか。児童向けではありますが、大人でも読みごたえがあり、自分の生きる道を考えさせられるような1冊です。

雑誌・新聞

厳しい暑さが続いています。熱中症予防や暑さをしのぐ工夫、夏の楽しみについて特集された雑誌をご紹介します。ぜひご活用ください。

『家の光』 Z051/I2 2023.7 (第99巻第7号) 特集「暑さをのりきる熱中症ゼロ習慣」

『チャイルドヘルス』 Z493.9/C1 2023.6 (Vol.26 No.6) 特集「子どもの熱中症」

『NHKきょうの健康』 Z498.6/N1 2021.7 (通巻400号) 特集「夏の健康」

『栄養と料理』 Z596/E2 2023.8 (第89巻第8号) 特集「ウー・ウェンさんの夏のめん」

『旅行読売』 Z689/R1 2023.8 (通巻946号) 特集「出航! 海の旅」

地域

『三春タイムズ 続』 長谷川 ちえ/文, shunshun/絵 信陽堂 2023.4 L914.6/H12/1-2

三春町で雑貨店を営む作者が、二十四節季ごとの季節の移ろいを描いたエッセイ集です。立春から大寒に至るまで1年間、小さな町で繰り返される日常が切り取られ、言葉の端々から三春の美しさ、生活の豊かさが感じられる1冊となっています。巻末には書下ろしとなる、元三春町長・伊藤寛氏の訪問記が収録されています。

2021年に刊行された『三春タイムズ』の続編です。

『白河藩の家臣団 白河藩分限帳集』(白河市歴史民俗資料館調査報告書 第6集) 白河市歴史民俗資料館/編 白河市歴史民俗資料館 2023.3 L215/S8/6-6

「分限帳」(ぶんげんちょう)とは、大名の家臣の名前、禄高、役職などを記したもので、武士の職員録ともいえるものです。当館でも、地域の歴史やご先祖について調査する際など、よく活用されています。本書は、白河藩主の榊原家、松平(奥平)家、松平(結城)家、松平(久松)家、阿部家の5家に関する分限帳7点の翻刻が収録されています。初めての翻刻となるものもあります。巻末には索引も掲載されており、人名等から掲載箇所を探ことができ、たいへん便利です。ぜひご活用ください。